

第1章 なりたの四季



春、暖かくなると、水辺ではアジアイトトンボをはじめとするイトトンボの仲間が飛び始めます。川の中では、コイやギンブナが泳いでいる姿を見ることができるとともに、小さな水路などではドジョウやモツゴが産卵を始めます。

印旛沼の湖岸部には、コチドリなどのチドリの仲間が飛来し、餌を採ったり、休んだりする姿が見られるほか、冬眠から覚めたクサガメなどが見られます。

水辺に形成されたヨシ原の周辺では、ギンイチモンジセセリが飛び始め、その名のとおりはねの後ろに入った一本の銀色のすじが目立ちます。畑地や川の土手、公園内の緑地の林床などには、モグラ塚や坑道（トンネル上部が盛り上がった状態）が多く見られます。

谷津田では、シュレーゲルアオガエルなどのカエルの仲間の卵塊やオタマジャクシが多く見られ、夜にはこれらの鳴き声の合唱も聞こえます。

里山では、春の一時期にしか出現しない「スプリングエフェメラル」であるミヤマセセリや、畑地をひらひら舞うモンシロチョウが飛び始め、タンポポなどの花で蜜を吸う姿がよく見られます。畑地や民家周辺では、スズメやムクドリが群れで餌を採る姿が見られるほか、キジの鳴き声も聞こえます。また、ニホンカナヘビや外来種であるハクビシンの足跡なども見られます。

斜面に見られる雑木林は、コナラやクリなどの鮮やかな新緑と、ヤマザクラやコブシなどのピンクや白の花が、モザイク状に入り混じっています。

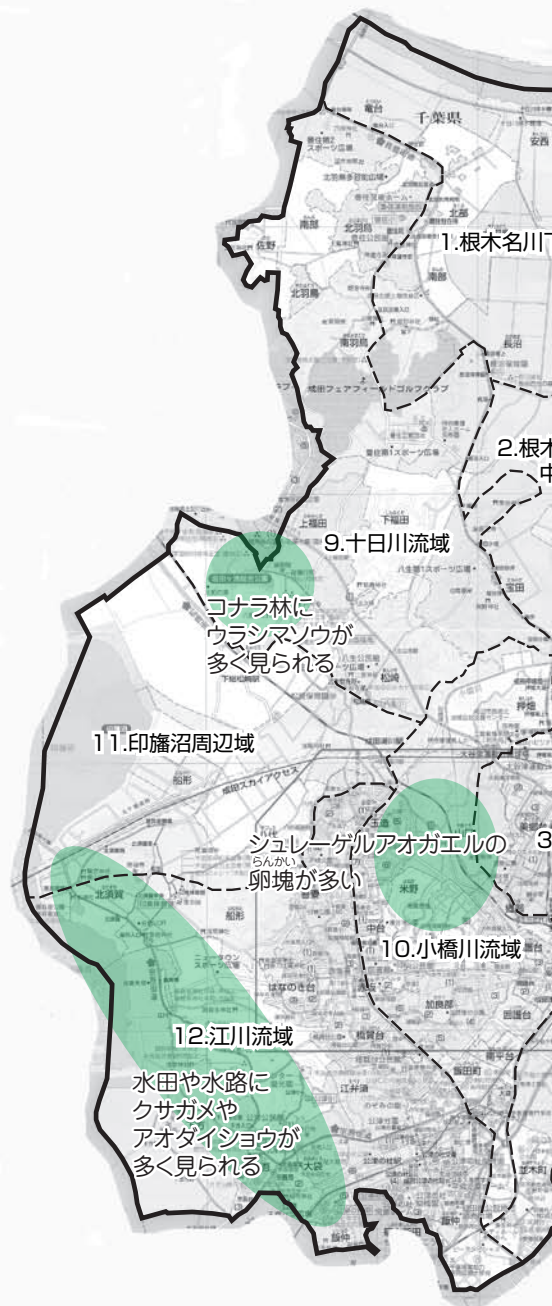
林縁・林床では、キンランなどの春に咲くランの仲間や、花房（花の集合体）から細長く飛び出た突起を「釣竿を持った浦島太郎」に見立てたウラシマソウやヤマツツジなどの低木の花も見ることができます。

春に見られる生き物

鳥類	ダイサギ、コサギ、コチドリ、ムナグロ、スズメ、ムクドリ、キジ、コジュケイ
魚類	コイ、ギンブナ、モツゴ、ドジョウ
ほ乳類	モグラ、ノウサギ、ハクビシン
両生類	ニホンアカガエル、シュレーゲルアオガエル
は虫類	ニホンカナヘビ
昆虫類	アジアイトトンボ、ギンイチモンジセセリ、モンシロチョウ
植物	ヤマザクラ、ヤマツツジ、コブシ、コナラ、クリ、キンラン、スミレの仲間、タンポポの仲間、シュラン、ニリンソウ、ウラシマソウ



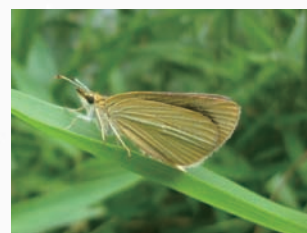
キンラン



ウmanoアシガタ



ニオイタチツボスミレ



ギンイチモンジセセリ



ウラシマソウ



大須賀川上流域の水田



天昌寺川周辺の谷津田



草地とヨシ原が広がる利根川の河川敷